

2026年度 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

【介護福祉学科】

領域	教育内容	科目	担当教員	履修学年および時間数				実務経験担当		実践的な教育内容
				1年	2年	3年	4年	時間数	単位数	
人間と社会	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅠ	月木 昌徳	1				30	1	特別養護老人ホームにて介護福祉士5年以上、また介護支援専門員として5年以上の実務経験を活かし、対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成のためのコミュニケーションの基礎知識を習得する講義を行う。
介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	横田 貴美江	2				60	2	介護老人保健施設にて介護福祉士として20年以上の介護経験を踏まえ、介護福祉士を取り巻く状況やその背景を理解し、介護の歴史や関係法規を通して、介護実践の基本的姿勢を身に付ける授業を行う。
	生活支援技術	生活支援技術Ⅲ	横田 貴美江	1				30	1	介護老人保健施設にて介護福祉士として20年以上の介護経験を踏まえ、高齢者等の休息・睡眠・福祉用具に関して理解し。様々な場面において臨機応変な福祉用具の活用ができるよう授業を行う。
	介護過程	介護過程Ⅰ	千原 雄一郎	2				60	2	介護福祉士として介護老人保健施設での20年以上の実務経験より、介護過程の意義と目的及び、展開するための一連のプロセスを理解する授業を実施する。
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	近藤 晃代	1				30	1	急性期病院、慢性期病院、特別養護老人ホームにて実務経験20年以上の幅広い看護経験を活かし、介護を必要とする人の生活支援を行うための介護実践の根拠となる人間の心理や人体構造・機能を理解することを目的とした講義を行う。
合計				7				210	7	

2026年度

実務経験のある教員等による授業科目
シラバス

介護福祉学科

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係とコミュニケーションⅠ		授業の種類 （ <u>講義</u> ・演習・実習）		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 月木 昌徳 （専任教員[ケアネージャー・5年以上]） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年生 後期		<u>必修</u> ・選択	
[授業の目的・ねらい] 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成のために必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 自己理解や他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。 また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できる。介護実践のために必要な組織内におけるコミュニケーションについて理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
	<u>①人間関係の形成とコミュニケーションの基礎</u>				
1	人間と人間関係、自分と他者の理解	第2章 第1節	講義	月木	筆記試験 100%
2	発達心理学・社会心理学からみた人間関係				
3	人間関係とストレス				
4	価値観の違いを考える				
5	コミュニケーションの概念・基本構造	第2章 第2節			
6	コミュニケーションの手段				
7	関係性によるあいさつの違いと含まれるメッセージについて考える・非言語の種類とメッセージについて考える				
8	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	第2章 第3節			
9	対人援助における基本的態度				
10	傾聴について考える				
11	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則				
12	バイステックの7つの原則について考える	第2章 第4節			
13	組織の条件とコミュニケーションの特徴				
14	組織において求められるコミュニケーション				
15	復習				

[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第1巻「人間の理解」	[単位認定の方法及び基準] 筆記試験
---	----------------------------------

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅰ		授業の種類 （講義）・演習・実習）		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 横田 貴美江 （専任教員【ケアラー・20年以上】） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）	配当学年・時期 1年前期		必修・選択	
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士を取り巻く状況や背景を理解する。また、介護の意義と役割、専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢を身につける。 [授業全体の内容の概要] 介護福祉の基本となる理念、介護福祉士の役割と機能、尊厳を支え自立に向けた介護の展開。介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職としての基本となる考え方を学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 複雑化、多様化、高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できる。地域や施設、在宅の場、介護予防、看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できる。ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容		テキスト	教授方法	担当講師 評価

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<u>①介護福祉の基本となる理念</u>					
1	介護とは何か	第1章	講義 演習	横田	筆記試験 100%
2	介護を取り巻く状況①				
3	介護を取り巻く状況②				
4	介護福祉の歴史①				
5	介護福祉の歴史②				
6	社会福祉政策 年代別における介護サービスの 変遷				
7	介護福祉の基本理念				
8	権利と尊厳を支える介護				
9	自立支援 自己決定を支える介護				
10	まとめ（小テスト）				
<u>②介護福祉士の役割と機能</u>					
11	介護福祉士の法的理解と役割	第2章	講義 演習	横田	
12	介護福祉士及び介護福祉法「義務規定」について				
13	介護福祉士に求められる像の理解				
14	介護福祉士に求められる像について考える				
15	介護福祉士を支える団体				
16	まとめ（小テスト）				
<u>④自立に向けた介護</u>					
17	介護福祉における自立支援の意義、考え方	第4章	講義 演習	横田	
18	利用者理解の視点、意思決定支援、自立と生活 支援				
19	ICFの考え方				
20	介護におけるICFの捉え方				
21	ICF事例検討				
22	リハビリテーションとは				
23	自立支援とリハビリテーションの実際				
24	障害の理解と評価				
25	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割				
26	介護予防の概要、種類と展開				
27	高齢者の身体特性と介護予防				
28	自立支援と介護予防における介護福祉士の役割				
29	まとめ				
30	復習				

[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第3巻「介護の基本Ⅰ」	[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、レポート課題
--	---

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者（職務・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 横田 貴美江 （専任教員【ケアラー・20年以上】） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年後期	必修・選択		
[授業の目的・ねらい] 高齢者等の休息・睡眠、福祉用具に関して理解させる。その人らしさや心身状況に応じた睡眠の在り方や、福祉用具の活用方法について理解し、専門職としての介護能力を高める。					
[授業全体の内容の概要] 利用者の心身状況や個別性に応じた休息の在り方や、安眠について学ぶ。また、様々な場面において臨機応変な福祉用具の活用ができる介護を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 高齢者等の休息・睡眠、福祉用具に関する知識や技術を理解し、習得できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	①休息・睡眠の介護	講座[7] 第5章	講義 演習	横田	筆記試験 100%
2	睡眠の意義と目的				
3	睡眠に関するアセスメント				
4	睡眠障害とは				
5	安眠のための環境作り、体位と用具				
6	安楽な姿勢とは				
7	休息・睡眠の介護における多職種との連携 まとめ				
8	②福祉用具の意義と活用	講座[6] 第4章	講義 演習	横田	
9	福祉用具と制度				
10	福祉用具の意義や今後の可能性				
11	福祉用具のリスクと管理				
12	福祉用具の種類と活用方法①				
13	福祉用具の種類と活用方法②				
14	福祉用具の種類と活用方法③				
15	福祉用具活用の多職種連携 まとめ				

[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第6・7巻 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」	[単位認定の方法及び基準] 授業態度、筆記試験、実技試験、レポート課題
--	---

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅰ		授業の種類 (講義)・演習・実習)		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 千原 雄一郎 (専任教員 [ブリーカー・20年以上]) ※上記の実務経験をもとに、教育を行う			
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）	配当学年・時期 1年前期	(必修)・選択				
[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を踏まえ、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができる能力を養うために、まず意義と展開方法を理解する。 [授業全体の内容の概要] 介護過程の意義や目的、目標、情報収集、アセスメント、課題設定、計画の立案、実施、評価。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 介護過程の意義と目的及び、展開するための一連のプロセスを理解する。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]							
回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価		
1	[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ① 介護過程の意義と基礎的理解・②介護過程とチームアプローチ 介護過程の意義 日常生活で体験する問題解決過程	第1章	講義	千原	筆記試験 100%		
2	介護実践における介護過程の必要性	第2章	講義 演習				
3	介護過程の目的、目標①						
4	介護過程の目的、目標②						
5	ニーズとは何か・要望とニーズ						
6	生活上のニーズ						
7	生活上のニーズと生活上の課題						
8	アセスメントの意味①						
9	アセスメントの意味②						
10	アセスメントにおける情報とは①						
11	アセスメントにおける情報とは②						
12	情報から判断を導くには①						
13	情報から判断を導くには②						
14	情報から判断を導くには③						
15	情報から判断を導くには④						

16	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	第3章	講義 演習		
17	生活上の課題の優先順位①				
18	生活上の課題の優先順位②				
19	介護計画の立案①				
20	介護計画の立案②				
21	介護計画の実施①				
22	介護計画の実施②				
23	介護計画の評価①				
24	介護計画の評価②				
	<u>②介護過程の展開の理解</u>				
25	実践的展開 一連の介護過程まとめ				
26	ICFモデル				
27	事例1				
28	事例2				
29	事例3				
30	まとめ				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第9巻 「介護過程」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、レポート課題			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅠ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 近藤 晃代 (専任教員〔看護師・20年以上〕) ※上記の実務経験をもとに、教育を行う		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年前期	(必修・選択)			
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。						
[授業全体の内容の概要] 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できるようにする。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						
回	主な内容		テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] こころとからだのしくみⅠ ア こころのしくみの理解		序章 第1章	講義 講義 演習	近藤	筆記試験 100%
2	「健康」とは何か：健康の定義や、様々な状況下にある人の健康観について知る					
3	人間の欲求とは何か： ①基本的欲求について ②社会欲求について ③自己実現について 自己実現と尊厳について： 活動するうえで欲求と尊厳、尊厳を守るため必要性について学ぶ					
4	こころとからだのしくみからだのしくみⅠ こころのしくみの理解 からだのしくみの理解		第1章			
5	「こころ」とは何か：脳とこころの関係・機能について学ぶ 脳の機能感情や意欲・動機付け適応の仕組みに					

6	ついて学ぶ からだの仕組みについて： からだのつくり・構造・機能について学ぶ (内臓・骨格・骨格筋の名称)	第2章			
7	細胞について、遺伝について				
8	脳・神経				
9	感覚器				
10	骨・関節				
11	筋肉・神経系				
12	呼吸器・循環器				
13	消化器・泌尿器				
14	生殖器・内分泌				
15	血液・体液・リンパ液	生命維持する仕組み			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第11巻 「こころとからだのしくみ」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、レポート課題			